

ぼくのお兄ちゃん、お兄ちゃん

山本 憲政

ぼくのお兄ちゃんは、みんなのお兄ちゃんと少しちがうところがあります。

弟みたいなお兄ちゃんです。どうしてかと言うと、お風呂に入る時、仕上げはぼくががしてあげます。くつをはく時、たまに右と左をまちがえる時があるので、ぼくが見てあげます。お兄ちゃんはフルーツが大すきなので、ママが分けてお皿に入れてくてもぼくがよそ見をしていたら、こっそりぼくのお皿のフルーツも食べられてしまいます。空手の練習を見に来て、すぐにあきて、ママがつれて帰ります。みんな、お母さんや、お父さんが見てくれているけれど、そんな時はぼくは一人で練習します。

そんな弟みたいなお兄ちゃんです。お兄ちゃんは、生まれた時からしうがいがありません。す。だつ毛しようと言うびよう気にもなつかみの毛もありません。しゃべることも少ししか出来ません。でも、ぼくが話しているのは分かるので、ぼくはお兄ちゃんと話すことが出来ます。お兄ちゃんの気持ちもぼくだから分かります。兄弟だからです。ママから先に生まれて来たのはお兄ちゃんだけれど、ママはいつも「けんがお兄ちゃんみたいやな。いつもありがとう。」と言ってくれます。でもぼくもお兄ちゃんに、ありがとうと思う時があります。それは、ぼくのおもいにもつを持ってくれたり、ぼくがせきをしていたり、ないているとすぐにせなかをさすってくれます。お兄ちゃんもぼくの気持ちを分かってくれます。ねる時もお兄ちゃんは一人でねられないけれど、そのおかげでぼくもくらくてもこわくありません。そんな時に心の中でありがとうと思っています。けんかもいっばいするし、友だちと遊んでいるとじやまもしてくるけれど、ぼくはそんな弟みたいなお兄ちゃんが大すきです。たまに友だちのお兄ちゃんみたいにゲームを教えてもらったり、しゆく題を手つだつてもらったりもしたいけれど、ぼくのお兄ちゃんがこうせいでよかつたと思つています。ぼくをこうせいのお兄ちゃんみたいな弟に生んでくれて、ママ、ありがとう。こうせい、ぼくのお兄ちゃんになつてくれてありがとう。大人になつても、にが手なことは、手つだうよ。ぼくがかなしい時は、いつもみたいいにわらわせてね。ありがとう。